



Kaori Nakano

1962年生まれ。服飾史家。
東京大学大学院総合文
化研究科博士課程単位
取得。ケンブリッジ大学客
員研究員などを経て、文筆
業に。著書に『着るものが
ない!』『スーツの神話』等。



Shuji Takano

1955年生まれ。INAXデザ
イン・ディレクター。早稲
田大学理工学部卒業。
90年入社、98年にデザイ
ンセンターを設立。01年
デザイン・ディレクターに
就任、06年より執行役員。



Masafumi Suzuki

1949年東京生まれ。2000
年『ENGINE』創刊。以来
編集長。著書に『OX(ま
るくす)』、『走れ!ヨコグ
ルマ』など。現在住むマン
ションのリビングルームは
壁がタイル張り。

Discover INAX

第2回 20人のデザイナーによる50のタイルパターン

タイルで住まいをデザインする

壁や床をキャンバスに、20人のデザイナーがタイルで描いた50の世界。
そこには、白い壁紙やフローリングの床とは全く違った驚きと楽しさがある。
タイルがやってくると、住まいの何が変わるのか? 前回に引き続き、
INAXの高野秀士さん、服飾史家の中野香織さん、本誌・鈴木編集長が語り合う。

語る人=中野香織、高野秀士、鈴木正文(本誌) 写真=PAK OK SUN/佐々木連光(人物) スタイリング=櫻井賢之

鈴木 今日、INAXが作ったタイル・パターンをデザイン・コレクション、「20人のデザイナーによる50のタイルパターン集」をめぐるお話を。そもそも、どうしてこういうものを作ろうと思われたんでしょうか。

高野 タイルというのは、ひとつひとつはただのパーツです。製品というか、部材というか。それを実際に選んで使う「商品」だと思っただけ。もともと、何が必要なんだろうかと考えたんです。タイルは組み合わせ次第でさまざまなことができる、ほとんど無限の可能性を持った素材です。でも「タイルってどんなことでもできるんですよ」と言うのはイメージが湧かない。やはり、具体的な組み合わせ、パターンというものを提示しなくてはいけないと思います。それで、20人のクリエイターのみなさんに、実際にいろいろ試みていただいたというわけです。

鈴木 タイルのイメージが変わりますね。これだけ様々に、表現的なことができる。タイル一枚ではなく、数十枚で構成されるパターンを単位に考えると、可能性が可視化される。

高野 建築家やインテリア・デザイナーの方々は普段からお付き合いがあるんですが、このコレクションではテキスト・デザイナーの方にも参加していただきました。どこで切っても柄として成立するとか、

小さなモジュールが集まって大きな柄を作るとか、そういうところにパタンナーならではの視点があって面白かった。実は200ぐらいのパターンがあったんですが、特に商品化に適したものとということで50に絞りました。

中野 これは浴室やキッチンだけではなく、普通のお部屋にも使うものなんですか。

高野 はい。水回りではない普通の部屋にも、壁にも床にも使えます。みなさん、たとえば家を建てたときに、あまり深く考えずに壁には壁紙というものを貼りますよね。でも、タイルを使うとこんなこともできるんだ、というのを見てもらいたい。

住まいを飾るタイル

中野 アイルランドなどでは、壁がモザイクタイルになっている家をよく見かけますよ。

高野 日本では、タイルは衛生面と耐久性の利点から導入されることが多く、主にキッチンや浴室に使われていますが、欧米では装飾材として普及してきました。ヨーロッパでは、装飾をしないと住宅として不完全だ、という感覚があるようです。自分で新しい建物を建てるということが少ないので、古い建物に自分なりの装

飾を施して自分の住居に仕立てる。

そこで、装飾材としてタイルが活躍する。タイルで自分らしい住まいをデザインする。ちなみに、タイルを貼るときには、前の人が貼ったタイルの上に重ねて貼るようですよ。

中野 あら、それだとだんだん狭くなりますね。

高野 そうですね。1センチぐらいずつ壁が迫ってくる。5層ぐらいになるとやっとなんかすんだそうです。

鈴木 「タイル」と「モザイク」というのはどう違うんでしょうか。

中野 モザイクというのは、ひとつのアート・フォームですね。パーツが集まって作られたものを指します。タイルのほうは、一般にはひとつひとつのパーツのことです。モザイクはもともとミュージズのいるところで作られていたものだから、芸術性を帯びている。手仕事であるけれど、タイルの方はずっと整然としたもの。タイルの配列方法が数学的な意味合いを持ちたりもします。

鈴木 マテリアルそのものは同じということですか？

高野 同じですね。「タイル」は、動詞として使うと「カバーする」「覆う」という意味です。

中野 瓦もタイルですよ。

高野 そうです。屋根を覆うもの、床を覆うもの、覆うものならタイルです。たとえば、スペースシャトルは断熱材でタイルされている、と英語では言います。

無難なものはいらない

中野 日本では、装飾的というよりは地味なものが多くですよ。ペーパージュとかピンクとか。飽きずに長く使えますからと、そういうものを勧められる。カタログを見て、すごく分厚いのに、似たようなものばかり。しかも何十年も変わらない。

鈴木 わざわざ非芸術的なものを勧めるというのが日本の販売員の常ですね。無難なものというか。

中野 キーワードは「無難」なんです。でもそういう発想がひとつ生活の中にあると、ほかのこと……

鈴木 全部そうなりますよね。

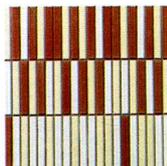
高野 とりあえずの人生になつていく。

中野 そうなんです。とりあえずまあ、無難なほうに。「誰からも文句を言われないうに」。でもそれって、外す危険もないかわりに得るものもあまりないことに気づきました。

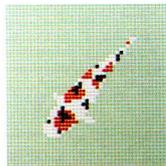
鈴木 それは大事なことです。

中野 前回取り上げた「サティス・カラーズ」ばりに、もっと大胆で

主体的にデザインする方が、ずっと自由に楽しい



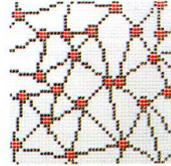
*DESIGN-11/2
Tomomichi Natsume



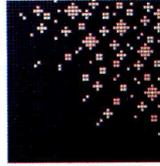
*DESIGN-27(1)/1
Claudio Colucci



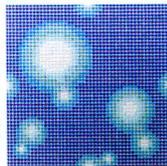
*DESIGN-34/2
Yoshinori Kikuchi



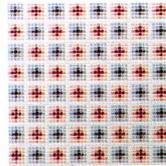
*DESIGN-06/1
Setsu Ito + Shinobu Ito



*DESIGN-23(1)/3
Claudio Colucci



*DESIGN-03/1
Makoto Yokomizo



*DESIGN-30/1
Haruki Mori



*DESIGN-25(1)/1
Claudio Colucci



*DESIGN-45/2
Noriyuki Otsuka



*DESIGN-44/2
Noriyuki Otsuka

つこいものが日本のインテリアにあればいいのに、と思っているんです。たとえば壁だったら、パロック調のものとか。

高野 提供する側としては、あんまり極端なものあまり売れないだろうと思いがちなんでしょうね。それで無難なものを用意する。でもそれだと、つまらないですよ。

鈴木 デザインしないこと、に満足するのでは寂しいですよ。タイルを部屋に持ち込むと、主体的にデザインすることを求められる。ある程度の覚悟とセンスが必要とされるけれど、その方が自由だし、楽しいですよ。

タイルの復権を！

鈴木 タイルの持つ、こういう積極的な表現性のようなものに着目したというのは、珍しいことですよ。

高野 最近では珍しい、というべきかもしれません。昔は絵心のあるタイル職人さんがたくさんいたんですよ。たとえば施主さんが「どーんと花柄でやってくれよ」とお願いすると、職人さんが「こんな感じはどうでしょう」と下絵を作り、それから実際に柄を構成していく、というようなことが、家を建てる過程で行われていました。でも最近ではタイル

をまったく使わない家も多くなり、タイルを貼るために職人さんを手配するということが少なくなりました。結局、職人さんが減ってしまったわけです。

中野 そういえば、昔のほうが身近にタイルを見かける機会が多かったような気がしますね。

鈴木 タイルの浴槽というのもよくありましたよ。

高野 そうですね。職人さんがいて初めて成り立つ商品ですから、INAXは「INAX建築技術専門学校」というものを運営して技術教育もしています。タイルの貼り方とか、目のとめ方とかを学んでいたわけです。

中野 たとえば、壁に壁紙を貼った場合とタイルを貼った場合では、なにが一番違ってくるんでしょうか。やっぱりテクスチャーということでしょうか。

高野 そうですね。やはり焼き物ですから、独特の素材感や、凹凸による陰影が楽しめます。それから、汚れがほとんどつかず、手入れが簡単です。床に使う場合には、床暖房に非常に適しているというのも大きな利点です。熱効率が良いですし、フローリングより耐久性に優れている。
鈴木 実は僕が住んでいる家にも、

部屋の中にタイル張りの壁があるんです。60年代の建物なんですけど、外壁と同じタイルが、居間の壁の一部にも使われている。

中野 冷たい感じはしませんか。

鈴木 全然じゃないですね。白いタイルで、目地がグレー。シンプルですが、デザインとしてもなかなか良いですよ。中野さんならどんなものを作ってみたいですか。

中野 ヒヨウ柄とか、キティちゃんとか……

鈴木 それは本気ですか？

中野 半分、本気です。半端なものはつまらないですよ。せっかくタイルでやるなら、よそでは見かけないようなものを。この、腰掛けられるタイプのものも、とても素敵ですね。実は、玄関の壁をタイルにしてみようかと考えていたところなんですけど、これは靴を履いたり、お客さまにちょっとお待ちいただいたりするのにびったり。

高野 僕が家を建てるときには、玄関を入ってすぐのところは広くて何も無いスペースを作ろうと思っていて、そこはやはりタイルにしてみてもいいです。

鈴木 つまり、そこに大きなカンヴァスができるというわけですね。夢がふくらみますね。

タイルの壁は、大きなカンヴァスのようなもの



「毎年、ポロニーヤでタイルの国際見本市があって、3年前からINAXも出展しています」「どんなものを展示するんですか」「日本的な風合いの、互みたいなものとかアラブの富豪が大量に買って行ったりします」「中東ではタイルをよく使うんですよ」「もともとタイルはイスラム圏からトルコ経由や北イベリア半島経由でヨーロッパへ渡ったんですよ」

タイルパターン=No.29
デザイン:森 治樹
パターンユニット *DESIGN-29/1
600×600mm 2万9400円

イス193万2000円～、サイドテーブル42万3150円、
スコープ2万9400円(すべてコンプレックス Tel.03-
3780-0677)、デスク6万8250円、ピクニックセット13
万6500円、胸像1万8900円、壺2100円(すべてH.P.
DECO Tel.03-3406-0313)、キャンドルホルダー2
万9400円、人形1890円(ともにアネモネ Tel.03-
5745-5915)、エアプランツ2625円、グリーン8400
円(ともにFUGA Tel.03-5410-3707)、ガラスフラ
ワーベース(植物込)3万7800円、流木1万8900円(と
もにc:chord Tel.03-3560-6915)、キリム48万3000
円(キリムズジャパン Tel.03-3401-5326)、ガラス
皿16万5900円(ダ・トリアデ青山 Tel.03-5770-1511)、
アートJaume Amigó「Untitled 2002」12万6000
円(アートフロントギャラリー Tel.03-3476-4868)



タイルパターンNo.50
デザインセキトリ
パターンユニット *DESIGN-50/1
600×600mm 2万9610円

テーブル22万8000円、イス3万9000円(ともに
シモンジャパン Tel.03-3404-0822)、グラス各
1万500円、コースター2835円、デキャンタ1万
7000円、フルーンサーバー6615円、バセット2
万4150円(すべてリビング・モチーフ Tel.03-
3587-2784)、キャンドルホルダー1万5750円(ダ
ドリアア青山 Tel.03-5770-1511)

